

笠間の陶炎祭

昭和57年（1982年）、笠間芸術の村の空き地で36軒の窯元たちが、手づくりの野焼き窯を囲んで笠間焼や食べ物を売るところから始まった。40年を超える歴史を経た今、200人を超える陶芸家が作品を並べ、多くの来場者で賑わう県内最大規模のイベントとなっている。

時期：4月29日～5月5日
場所：笠間芸術の森公園



笠間つつじまつり

約7haの園内には、さまざまな品種のつつじが植えられており、最盛期に小高い山一面が真っ赤に染まる。期間中は苗木の即売やイベント等が開催されている。

時期：例年4月中旬～5月上旬
場所：笠間つつじ公園

北山公園の桜

ソメイヨシノや八重桜、枝垂桜など1,000本余りの桜で賑わう。

時期：例年4月上旬
場所：北山公園

愛宕山 桜まつり

火防信仰で知られる愛宕山は桜の名所。ソメイヨシノ・山桜など約20種類、約2,000本の桜が4月上旬から開花する。

時期：例年3月下旬～5月上旬
場所：愛宕山



難台山のすずらん群生地

愛宕山-難台山-吾国山ハイキングコースの、難台山-道祖神峠間のルートからほど近い東側に日本古来の自生のすずらん群生地がある。

時期：例年5月中旬
場所：愛宕山-難台山-吾国山ハイキングコース

大藤・八重の藤

花房が最長で1.5メートルになる「大藤」と、葡萄の房のように花を咲かせる「八重の藤」は、いずれも樹齢400年あまり。「八重の藤」は県の天然記念物に指定されている。

時期：例年5月上旬
場所：笠間稲荷神社

合気神社 例大祭

合気神社は、昭和19年（1944年）に合気道の開祖 植芝盛平翁によって創建。現在約140の国と地域に広がる合気道の、世界で唯一の神社で、「合気道の聖地」と敬愛されている。

時期：例年4月29日
場所：合気神社



陽気で鮮やかな自然の彩りに 春の祭りに笑顔が華やぐ

自然の生命、その息吹と鼓動を感じながら春を迎えるこの街は、花々に満ちている。
その彩りに躍る心が人を呼び、その歓びが春の祭りへと駆り立てるようだ。
笠間の春の賑わいがここから始まる。

笠間には四季折々の楽しみがあるが、とりわけ春の景色は生き生きとした色彩に満たされ、気持ち華やかにさせてくれる。生命力あふれる自然の豊かさに加えて、訪れる人を楽しませてくれる恒例の祭りがたくさんあるからだ。

笠間で「お花見」といえば、北山公園と愛宕山。なお、愛宕山では桜まつりが開催されている。

北山公園は、ソメイヨシノや八重桜、枝垂桜など千本余りの桜が美しい。展望台からは冬を終えた樹木の芽吹きを三百六十度パノラマで楽しむことができる。

愛宕山も、桜の名所として長く親しまれている。二千本のさまざまな桜が山を包み、麓から山頂に建つ愛宕神社周辺にかけて、品種の異なる桜が時期を変えながら開花し、牡丹桜などゴールデンウィークの時期まで長くお花見を楽しめる。

佐白山に連なる小さな富士山は、つつじの名所である。約八千五百本におよぶ壮大な花山の景色は、昭和四十二年（一九六七年）に植えられた千株のつつじに始まる。市民の協力を得て「つつじ一株寄付運動」が発足、翌年から「つつじまつり」が開催された。四月中旬から五月上旬にかけて、山一面つつじに包まれた壮大な花山が見頃を迎える。

その他、佐白山ろく公園、八坂神社、「笠間ショッピングセンターポレポレシティ」近郊を流れる涸沼川の桜並木、稲田神社、筑波海軍航空隊記念館などの桜も見応えがある。

五月に咲く笠間稲荷神社の藤の花もこの季節の風物詩だ。境内にある樹齢四百年におよぶ「二株の藤樹」は、例年五月上旬が見頃。「八重の藤」は根回り約五・三メートル、枝張り約十五メートルの大きさがあり、茨城県内でも随一で、昭和四十二年に県の天然記念物に指定されている。もう一株の「大藤」は、一重咲きの花穂の長さが一メートルにもなり、藤の甘酸っぱい香りを境内に漂わせる。

こうした花々の咲き誇る中で、この街の最大イベントである「笠間の陶炎祭」が開催される。二〇〇を超える窯元などが一堂に介して、会場となる笠間芸術の森公園は笠間焼の作り手たちのテントでびっしり。創造と個性が結集する陶芸の祭典は、毎年多くの来客で賑わう。メイנסテージではライブパフォーマンスやワークショップなども開催され、お祭り一色で楽しめる催しとなっている。

**おすすめ動画
「桜まつり」**



笠間市には多くの桜の名所があり、ソメイヨシノ、山桜からはじまり、枝垂桜や八重桜などの桜を長い期間楽しむことができる。



八坂神社の御祭神は、素戔鳴尊（スサノノミコト）。創立は貞観年間（建長6年（1254年）笠間城下石井の天王塚に遷座。天正2年（1574年）に三所神社内に遷宮した後、慶安2年（1649年）、現在の場所に遷座した。古来より常陸国三天王（一の矢天王、水戸の天王、笠間の天王）の一つとされ、明治2年までは、毎年霜月中西の日に新嘗大祭を行い、祭礼中には稲田神社までの渡御神事があった。明治7年に村社へ列格となった。



夏だ、祭りだ、わっしょい！ 伝統と歴史の熱い街へようこそ

夏は祭りの季節であるとともに、祈りの季節でもある。
歴史ある祭事が多いこの街の敬虔な人びとの思いは、額に汗して熱く、
街のそこかしこにこだまする。
暑い笠間の夏、元気な笑顔が眩しい。



かさまスポーツ&フードフェス
日本ゴルフツアー選手権開催期間中に開催される、スポーツと食、花火などが楽しめるイベント。
時期：6月上旬
場所：中央ヒルズカントリークラブ

八雲神社夏季例祭
子どもから大人まで、多世代に渡って現在も続く友部地区の夏祭り。勇ましい掛け声とともに関係町内の神輿が渡御する。
時期：例年7月下旬
場所：友部駅前



全国子ども陶芸展 in かさま
日本が誇る伝統文化である陶芸に挑んだ全国の子どもの陶芸作品を展示する一大イベント。優れた作品にはさまざまな賞を授与。次世代への陶芸文化の継承を推進している。
時期：例年7月下旬～8月下旬
場所：茨城県陶芸美術館

八坂神社祇園祭
750年の歴史を誇る笠間の夏祭り。笠間領民の難病消除の祈願を行い、領内繁栄を願う神事。夜には、八坂神社の神輿に大人神輿が合流し、祭りは大きく盛り上がる。
時期：例年8月上旬
場所：笠間稲荷門前通りほか



おすすめ動画
「平神社 祇園祭」

平神社 祇園祭

當家廻りの伝統を継承する歴史ある夏祭り。上町、中町、下町、橋爪の四町で神輿を担ぎ、各町内を練り歩く。

灯籠流し
故人を偲ぶ、灯籠流しのひととき。
時期：例年8月中旬
場所：笠間ショッピングセンターポレポレシティ南側亀ヶ橋付近

新緑美しいこの街の初夏の恒例イベントは、ゴルフ愛好家お待ちかねの「日本ゴルフツアー選手権」。日本四大メジャーゴルフツアーの一つで、毎年六月に中央ヒルズカントリークラブで開催されている。多くの市民がボランティアで参加するこのツアーに合わせ、同カントリークラブのイベント広場では「グリーンフェスタかさま」が開催される。マーチングバンドの演奏の他、ステージイベント、笠間の食や特産品などの模擬店、百ヤードいなり寿司巻き挑戦などが大会を盛り上げる。

そして夏祭りの季節がやってくる。筆頭は八雲神社の夏季例祭だ。

八雲神社は、明治三十四年（一九〇一年）、小原神社（永徳元年に鹿島神宮から分霊を迎えて創建された小原地区の由緒ある神社）の分社として創建された。夏季例祭は、例年七月下旬の週末に友部駅前通りを歩行者天国として開かれ、太鼓や神輿など、町内を沸かせる夏祭りとなっている。

宍戸の平神社は天治元年（一一二四年）に創建された古社で、笠間でもっとも歴史ある祇園祭を守り継ぐ。古くからのしきたりに則り、「當家」廻りの伝統が祭りを取りしきる。清い身で渡御に臨むため、當家は一年間胡瓜と川魚を食することを禁じられ、「渡御中、会話はまかりならぬ」など厳格な決まりごとを守る。神輿は宍戸古来の上町、中町、下町、橋爪の四町から担ぎ出され、それぞれの地域安全、商売繁盛を祈り

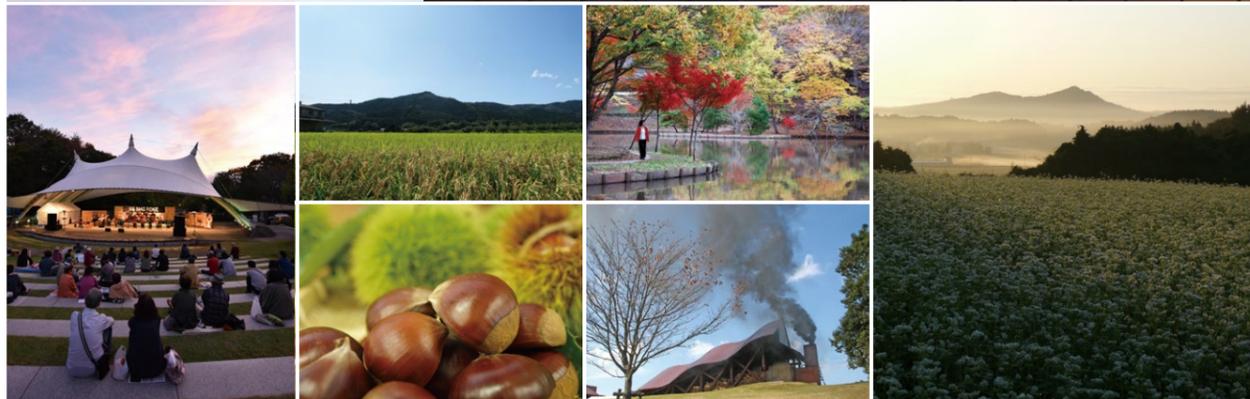


ながら、町内を練り歩く。

歴史ある夏祭りは八坂神社祇園祭で頂点に達する。約七五〇年前の鎌倉時代、建長六年（一二五四年）に、笠間城主・笠間時朝公が下野国（現・栃木県）茂木の小貫郷天王森に鎮座する牛頭天王社を領地の石井村石井原天皇塚に遷宮させ、領民の難病消除の祈願をさせたのが当祭礼の興りである。

昭和三十三年（一九五八年）に漆塗り金箔張りに新調された現在の本神輿は、当時「関東一の大神輿」と呼ばれるほどの京神輿で、その豪華さは今も変わらず、この街自慢の風格を保っている。夕刻から歩行者天国となった笠間稲荷門通りを本神輿と、子供神輿を肩に威勢の良い掛け声が響き渡る。

近年の「ウィズ コロナ・アフター コロナ」で社会環境が多様化する中、密を避け、自然の中でゆっくり仕事をしたい、美しい星空を家族や友だちと楽しみたい。笠間市は、そんな願いを叶えてくれる街(写真右は公民連携による施設「空に近い森のアウトドアリゾート『ETOWA KASAMA (エトワカサマ)』」)。



この街の秋は、毎週末、何処かで楽しい何かがあなただを待っている

秋。この街を訪れる人びとは皆、その賑やかな活気に驚かされる。収穫感謝の祭典があれば、歴史ある伝統行事があり、笠間焼の匠を堪能できる催しもあり。自然の恵みと文化の薫りのフルコースが、この街の秋である。

蒸し暑い夏の日々が、次第にしのぎやすい穏やかな朝夕に変わり始めると、稲穂が垂れ、稲が黄金色に色づき、街は稲刈りの季節を迎える。待っていたかのように、収穫された農作物や果実が街のあちこちに並び始める。笠間の秋は豊かな実りゆえに、ゆっくりと賑やかに流れていく。

「笠間」といえば、「栗」と言われるくらい、笠間の栗は今や全国屈指のブランド品である。栗の収穫時期に開催される「かさま新栗まつり」は、街を挙げて栗の収穫を祝う恒例行事。生栗や焼き栗をはじめ、栗料理やスイーツ、栗に関連したハンドメイド商品の販売や栗拾い体験など、子どもから大人まで楽しめるイベントが盛りだくさん。「栗」のアイディアレシビコンテスト入賞作品の販売も面白い。

「笠間浪漫」は、この街の産業祭のようないイベントで、「手作り・笠間産・郷土愛・田舎・懐かしい」をテーマに、笠間の魅力を最大限にアピールするお祭りだ。会場となっている笠間芸術の森公園のイベント広場では、笠間焼や木工製品などのクラフトや雑貨、笠間産の農産物やグルメなど、趣向を凝らした企画で来訪者を楽しませてくれる(一例として令和四年(二〇二二年)には台湾フェアや笠間焼ビールフェアなどの屋台が出店)。例年、公園内の野外ステージで同時開催されるビックバンドの野外コンサートなども好評だ。笠間の秋を語るとき、欠かせないの

は菊の花だ。「笠間の菊まつり」は、笠間稲荷神社境内で行われていた「朝顔会(朝顔展示)」がその前身で、当時、戦争で荒廃した人びとの心を和ませることや信仰を育む一助として、先々代の宮司が明治四十一年(一九〇八年)に農園部を設けて、菊花を境内に展示したのが始まり。昭和二十三年(一九四八年)からは「菊人形展」を開催。翌年には、戦後の混乱の時期にもかかわらず、笠間稲荷神社の菊が「アメリカ国際菊花展」(シアトルで開催)に出品され、最優秀賞のブルーリボンを受賞するなど、笠間の歴史に栄誉を刻みながら、企画と工夫を凝らして現在に至っている。毎年十一月三日に開催される流鏝馬もこの街の見応えある伝統行事である。

さらに、秋の伝統行事には六所神社の例大祭もある。岩間地区最大の祭礼で、明治六年(一八七三年)以来の長い歴史がある。当日奏でられる「岩間囃子」は、市の無形民俗文化財に指定されている。

おすすめ動画「流鏝馬」



小笠原流一門の射手や古武道振興会の人々など総勢40名が的を鏝矢で射て、来年の農業の豊凶を占う。



六所神社例大祭

明治6年(1873年)、下郷地区の五社を八幡神社に合祀した記念祭礼で、氏子町内から山車や囃獅子が街中を練り歩く岩間地区最大のお祭り。

時期: 例年 11月第1土日
場所: 六所神社・岩間駅周辺



陶と暮らし。

笠間の陶芸家の「秋の新作」を中心とした陶器市。くらしのワークショップ、出店作家のカップで珈琲が楽しめる陶くらcaféなども開催される。

時期: 例年 11月中旬
場所: 笠間工芸の丘 特設会場



ふるさとまつり in かさま

商工会・JA・社会福祉協議会などが共同で開催する行事。特設ステージでは、歌謡ショーやキャラクターショーなどが開かれる。

時期: 例年 10月下旬
場所: 友部公民館



笠間の菊まつり

明治41年(1908年)から始まった笠間の菊まつりは、笠間稲荷神社をメイン会場に黄・白・ピンクなど色とりどりの菊が市内に咲き誇る。

時期: 例年 10月中旬～11月下旬
場所: 笠間稲荷神社ほか



笠間浪漫

「手作り・笠間産・郷土愛・田舎・懐かしい」をテーマに、田舎の良さ・面白さを前面に出し、来訪者を楽しんでもらうお祭り。

時期: 例年 10月上旬
場所: 笠間芸術の森公園



かさま新栗まつり

栗の収穫時期に開催される、生栗・焼き栗・栗菓子など、栗一色でもてなす祭典。

時期: 例年 9月下旬または10月上旬頃
場所: 笠間芸術の森公園



かさま観光周遊バス

友部駅着特急（下り）のダイヤに合わせ友部駅を出発し、笠間工芸の丘、茨城県陶芸美術館、笠間日動美術館、笠間稲荷神社、春風萬里荘、道の駅かさまなど、主要観光施設を巡り、友部駅へ戻る周遊バス。

所要時間：50分
 料金：1回乗車につき100円
 1日自由乗車券：300円
 (2022年12月1日現在)

*美術館など5施設の入場割引等の特典付き。



おすすめ動画 「初午いなり寿司まつり」



初午の日にちなんで、ご当地グルメであるそばいなり寿司の長さ日本一に挑戦するイベントを開催。



悪態まつり

白装束の天狗に扮した十三天狗が、祀（ほこら）に供え物をして回る儀式で、この間に参加者が悪態を言い合い、天狗に邪魔されながら供え物を奪い合うという奇祭。

時期：例年12月中旬
 場所：飯綱神社(愛宕神社)



かさま陶芸の里ハーフマラソン大会

全国から集まるマラソン愛好家や市民ランナーを、街全体で応援する。

時期：例年12月中旬
 場所：笠間芸術の森公園



彩初窯市

年初めに行われる陶器市。毎年60人以上の作家がテントを出し、個性豊かな新作を発表。初詣に訪れた観光客や陶芸ファン、家族連れなどで賑わう。

時期：例年1月2日から5日
 場所：笠間工芸の丘特設会場



来年へ歩く会

大晦日の夜、愛宕山山頂の大駐車場から各自参道を歩いて愛宕神社へ。山の上での初詣と初日の出で新春を祝う。記念品配布あり。

時期：12月31日(大晦日)
 記念品配布：午後11時から翌日午前0時半
 場所：愛宕山 *参加費無料・事前申込不要



かさまの陶雛～桃宴～

陶芸家たちが制作したオリジナルの陶製ひな祭り。

時期：例年1月下旬～3月初旬
 場所：市内各地



節分追儺式

正装した約200人の撒豆行事司等の手により、宮司家伝統の秘法で調整された金銀福豆と共に福銭等がまかれる。

時期：例年2月3日
 場所：笠間稲荷神社



ゆく年とくる年を穏やかに、厳かに 街とともに、家族とともに

田園に霜が降り、街行く人の吐息が白く染まるこの季節、
 寒さを和らげるぬくもりを誰もが求めるこの季節、温かく寄り添い、
 ともに春を迎える人がいてほしい、街であってほしい。
 その願いを心に留めて、この街は人びととともに新しい年を迎える。

晩秋から初春にかけて、夜半、山間部などを低気圧が通過して湿度が高くなったとき、放射冷却で冷やされて行き場のなくなった空気が盆地など一帯に飽和状態となり、霧が発生する。山頂などから見下ろす、この遥か彼方へ漂う海原のような眺めは「雲海」と呼ばれる。笠間の小高い山々からも観察される。特に朝日に照らされ東方に広がる愛宕山からの雲海の眺望は、筆舌に尽くし難い。

師走を迎えた笠間では、「かさま陶芸の里ハーフマラソン大会」が開催される。笠間芸術の森公園をスタート・ゴールに、最低標高四十三メートル、最高標高七十四メートル(高低差三十一メートル)の全行程二十一・〇九七五キロメートルで笠間を感じる事ができるコースとなっている。参加賞は笠間焼。気持ちよく汗をかいた後の、ご当地グルメ「笠間いなり寿司」の味は格別だ。

ハーフマラソンでは仮装した走者が沿道の観客を楽しませてくれるが、同じ頃、愛宕神社北側にある飯綱神社では、白装束で天狗の格好をした十三人の天狗が「悪態まつり」を披露する。天狗たちが境内にある十六か所の祠へお供え物をして回る際、参加者たちは「ばかやろう!」「早く歩け!」など罵声を浴びせ合い、お供え物を奪い合うという、一風変わったお祭り。年の終わりに疫病退治を祈願するには打ってつけの奇祭である。

そして、年の瀬。この街もゆく年、



くる年を迎える。

佐白山ろく公園には、寛文二年(二六六二年)から使われている時鐘がある(現在の鐘は三代目)。この街の大晦日の夜は、ここで除夜の鐘を打ち、新年を迎えて、笠間稲荷神社などへ初詣に向かう人びとで賑わう。愛宕神社では、「来年へ歩く会」という催しに参加して、初詣や初日の出を楽しみ人びとも多い。

新春を迎え、初詣客や陶器市(彩初窯市)などで賑わう街は、立春を迎える頃から春が開花する。節分が市内の神社で執り行われ、常陸国出雲大社などの梅の見頃には、市内のいちご農家の出荷が始まる。そして、桃の節句に先駆けて、この街の陶芸家たちが楽しませてくれるのが、オリジナルの陶製雛人形。「かさまの陶雛(桃宴)」と題するこのひな祭りは平成十三年(二〇〇一年)から行われていて、期間中は陶雛人形制作ワークショップを実施する窯元もある。

